

巻頭言

富山県高等学校教育研究会

情報部会長 辻 直史

一年間、教科『情報』部会のお世話をさせていただきました。理事の皆さんには大変お世話になり、それなりの成果を出すことができたと思います。また、それぞれの学校の状況も聞かせていただきとても参考になりました。

さて、会員の皆様は日頃学校で情報を教えておられますが、その一方、職場では情報やコンピュータの専門家としていろいろと、ご苦労願っていることと思います。私は、コンピュータは、よくできた文房具と一緒にだと思っています。鉛筆や消しゴム、三角定規やコンパスなどと同じようなものだと思います。たとえばコンパスについて考えてみると、ただ単に円を描くだけの人もいれば、それによって精密な設計図が描ける人もいます。つまり、使う人によって使い方のレベルが違ってきます。三角定規も同様のことがいえます。文房具であるコンピュータも同じように使う人のレベル、知的レベルにより使い方が異なってきます。それゆえ、コンピュータの使い方にも上達することも大切ですが、生徒や使う人が各自の知的レベルを上げることが本当にコンピュータを使えることにつながっていくと思います。

もっと言うと、情報の取扱方や処理の仕方についても、それぞれの知識によって、やり方の優劣がついてきます。その中には、当然セキュリティやマナーについても含まれています。マナーやセキュリティは人間性そのものです。安全で快適により深く情報を集め処理することにより、快適な情報ライフ、コンピュータライフを送ることができるはずです。

より快適な情報生活を送ることができるよう、皆さんの活躍を期待いたします。